

三菱地所株式会社 様



シスコの会議専用システムでZoomやMicrosoft Teamsを利用 オンラインとオフラインの参加者が存在する ハイブリッド会議に臨場感と一体感をもたらす

社会のニーズや環境変化を先取りする。このような意識の基、三菱地所株式会社(東京都千代田区)は、自ら働き方改革に積極的に取り組んでいる。その一環として着手したのが、オンラインとオフラインの参加者が共存するハイブリッド会議の改善だ。オンラインの参加者には誰が話しているのかが分かりづらい。ついオフラインの参加者だけで会議を進めてしまうといった課題があったハイブリッド会議に、参加意識や一体感をもたらそうと考えたのだ。

具体的には、高機能な会議専用システム「Cisco Webex Room Kit Plus」とZoom、Microsoft Teamsを組み合わせ利用できるようにし、使い慣れたツールでの会議に臨場感を付加している。



総務部
主事
中井 大貴氏

社会課題の解決に貢献するため自ら新しい働き方の推進を実践 ニーズを先取りして、働きがいの再定義などに挑む

「まちづくりを通じた社会への貢献」を基本使命に掲げる総合不動産会社の三菱地所株式会社。オフィスや商業施設の開発・賃貸・運営管理、収益用不動産の開発、住宅の開発・分譲、不動産仲介、海外事業など多岐にわたる事業を展開している。

1890年、同社はまだ原野だった東京・丸の内一帯を購入し、世界有数のビジネスセンターに育て上げた。この歴史が示すように、同社のビジネスの根底には、成長や発展のためのチャレンジを重視する「デベロッパーマインド」がある。そのマインドを基盤にして、同社は創造する空間や提供するサービスに求められる本質的な価値を理解し、社会のニーズや環境変化を先取りした新事業の創出に取り組んでいる。

そのチャレンジの一環として、かねて同社が力を入れているのが新しい働き方の推進である。

コロナ禍によって、人々の働き方は大きく様変わりしたが、元々、働き方改革は少子高齢化や労働人口の減少などを解決するための取り組みである。同社も社会課題の解決に貢献すべく、コロナ禍以前から働き方改革に積極的に取り組み、試行錯誤しながら様々な知見を蓄積。それをオフィスビルの開発をはじめとした「まちづくり」に活かすなど、幅広い取り組みを進めてきた。

「物理的な壁だけではなく、役職・年次・性別などに関わらず、あらゆる境界をなくし、自由に意見をぶつけ合い、社員全体がつながりをもつことで価値を発揮できる空間にする為、『Borderless! × Socializing!』をコンセプトに掲げて新しいオフィスや実現。そこで可能になる新しい働き方を通じて、現在の人々が求める『働きがい』を再定義し、提案しています」と中井 大貴氏は言う。

誰が発言しているのかが分かりづらい 参加者に一体感が生まれづらいハイブリッド会議

そのため同社は、従来のオフィスや働き方が抱えている課題を解決や改善をしている。会議もそのひとつである。会議資料は、かねてペーパーレスを進め、準備の効率化やスムーズな情報共有を図ってきた。また近年はWeb会議サービスを積極的に活用。多くの社員が時間や場所にとらわれず、柔軟に打ち合わせを行なっている。

しかし、課題が残っている会議もあった。オフラインとオンライン、2種類の参加者が同時に存在するハイブリッド会議である。「複数の人が実際に集まっている会議に、オンラインで参加する人がいるようなケースです。オンラインの人にとっては、会議室にいる人の中の誰が発言しているのか、また話しているときの表情がいまいち分かりづらい。一方、会議室にいる人にとっては、つい目の前にいないオンライン参加者への意識が薄れる。ハイブリッド会議では、臨場感の乏しさなどから参加意識に温度差が生じたり、一体感が生まれづらいことを課題に感じていました」と中井氏は言う。

シスコの会議専用システムの機能を活かしながら ZoomやMicrosoft Teamsと連携させたい

そこで同社は会議室に設置する会議システムの見直しを検討した。「臨場感と一体感のための音声や画質の良さなどはもちろん、すでに社内でも利用しており、ほとんどの社員が使い方を知っているWeb会議サービス『Zoom』と『Microsoft Teams』の会議に対応できることが欠かせない要件でした。『定着』はITサービスの導入における重要フェーズ。失敗してしまうと、サービスがまったく使われなくなる。せっかく定着に成功しているサービスを新しいサービスに切り替えるのはリスクが高いと判断しました」と中井氏は話す。

この要件のもと、複数のシステムを比較し、同社が最終的に採用したのがシスコの「Cisco Webex Room Kit Plus」である。「音声や画質の良さ、話者を自動的に検知してズームアップする追尾機能、カメラ映像と資料を同時に表示できるマルチモニターなどの機能に加えてインテリアとしてのデザイン性の高さなどを評価しました」と中井氏は言う。

ただ、広く知られているとおり、シスコは「Webex Meeting」というWeb会議サービスを提供している。当然、Cisco Webex Room Kit Plusは、そのWebex Meetingの利用が前提となっており、標準のままではZoomとMicrosoft Teamsと連携できない。

技術力によって、この課題をクリアしたのが導入を支援したネットワークシステムズである。

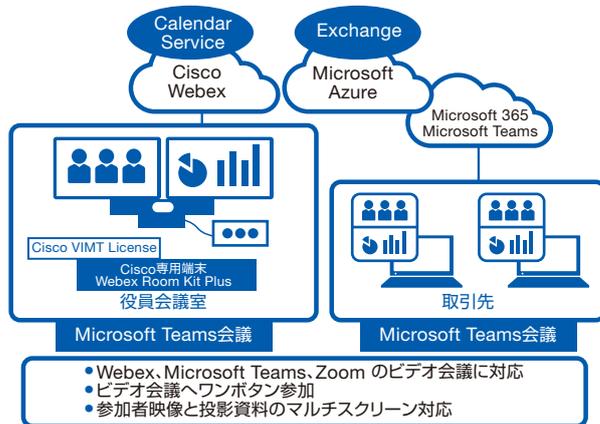
ネットワークシステムズのサポートによって、同社はCisco Webex Room Kit Plusのハードウェアを利用しつつ、Web会議サービスはZoomとMicrosoft Teamsを利用する。要件通りの会議室を実現したのである。

持ち前の技術力とプロジェクトマネジメント力を発揮して 直面した課題を1つずつクリア

ネットワークシステムズは、シスコの製品やサービスに精通しており、豊富な知識と経験、さらにはシスコとの強固なパートナーシップを持っている。それらを活かしてCisco Webex Room Kit PlusでZoomとMicrosoft Teamsを利用するためのシステムインテグレーションを実施した。

「ZoomやMicrosoftとの契約の種類によっては、連携が難しい部分があるなど、様々な問題に直面する場面もありましたが、問題点を明らかにして、各ベンダーに問い合わせながら、1つずつクリアしてくれました。プロジェクトに共に取り組むパートナーとして、非常

Cisco Webex 専用端末で新しいWeb会議環境を実現!



に心強く感じました」(中井氏)。

こうして完成したCisco Webex Room Kit Plus設置の会議室は、無事に稼働を開始。会議専用システムならではの高品質な音声と画質、話者の追尾機能、マルチモニターといった機能によって、ZoomやMicrosoft Teamsでの会議に臨場感と一体感をもたらしている。

「Outlookの予定表と連携させており、ZoomやMicrosoft Teamsで設定したWeb会議のボタンがCisco Webex Room Kit Plusの画面上にボタンで表示されるようになっています。そのボタンを押せば、会議室ごと簡単にハイブリッド会議に参加可能。非常に簡単な仕組みとなっており、操作に関する問い合わせはほぼありません。会議の品質に対するクレームもほぼないことも含めて、新しい会議室がスムーズに稼働していることの証だと受け止めています」と中井氏は成果を述べる。

臨場感と一体感を持たせたハイブリッド会議の実現によって、さらに新しい働き方を推進させた三菱地所株式会社だが、すでに同社は次の施策に取りかかっている。「グループ全体で新しい働き方を底上げするため、グループ会社が広く利用できるサテライトオフィスの企画と、その施設では執務用途以外にも社内内外のイベントなどマルチに利用できる場所とすることを考えている。その象徴として110インチのマルチモニターの設置を企画しており、ネットワークシステムズにも相談しているところだ」と中井氏。社会のニーズや環境変化を先取りしてきた同社が、社会にどんな新しい提案するのか。大いに注目したい。

三菱地所株式会社

<https://www.mec.co.jp/>

1937年設立の総合不動産会社。「まちづくりを通じた社会への貢献」を基本使命に掲げ、不動産事業を中心に幅広い事業を展開しています。



ネットワークシステムズ株式会社

〒100-7024 東京都千代田区丸の内2-7-2 JPタワー
<https://www.netone.co.jp/>



ネットワークパートナーズ株式会社

〒100-7026 東京都千代田区丸の内2-7-2 JPタワー <https://www.netone-pa.co.jp/>

記載されている社名や製品名は、各社の商標または登録商標です。
記載情報は2022年1月現在のものであり、予告なく変更される場合があります。
最新の仕様および価格については、弊社営業までご確認下さい。

